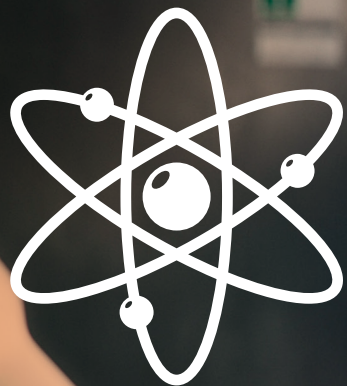
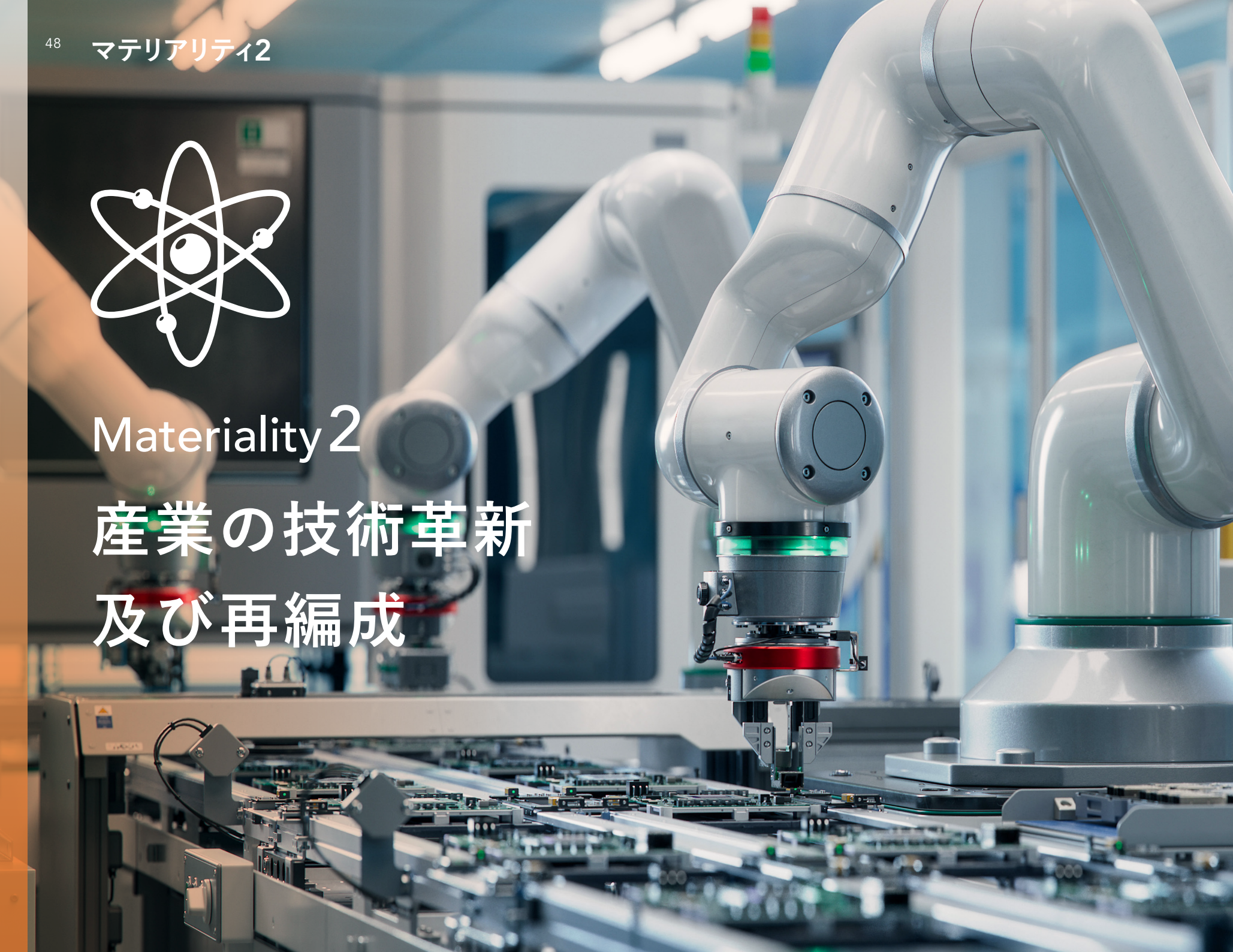




Materiality 2

産業の技術革新
及び再編成



DBJグループは、戦後復興期から現在に至るまで、多岐にわたる産業分野において、技術開発や海外展開、再編等をサポートし、日本の経済成長や産業発展に貢献してきました。

今後、日本経済の持続的成長や国際競争力の維持・強化、脱炭素・資源循環型社会への転換等を推進していくためには、GXやDX等の領域でのイノベーションが鍵となってきます。また、地政学リスクの高まりや、大規模な自然災害等のリスクを踏まえると、製造業を中心にサプライチェーンを再編成・強靱化していくことも欠かせません。

DBJグループは、今後も産業分野における技術革新や再編成等を積極的にサポートしていきます。

鉄鋼産業の国際競争力強化をサポート

～日本製鉄によるUnited States Steel Corporationの
買収に対するハイブリッドファイナンス～

(P.50)

体外診断薬分野における我が国の競争力強化を後押し

～デンカによるカイノスの株式取得に対する出資～

(P.51)

自動車業界における事業承継及び 再編への特徴的な取組をサポート

～セレンディップ・ホールディングスによる
サーテックカリヤの事業承継に対する優先株出資～

(P.52)

特定重要物資の国内安定供給を金融面からサポート

～大阪チタニウムテクノロジーズ・日本触媒に対する
経済安全保障推進法に基づくツーステップ・ローン～

(P.53)

持続可能な医療の実現に向けた 医療ロボットの開発推進をサポート

～ソニーグループ発のスタートアップ企業・
クオリィに対する出資～

(P.54)

鉄鋼産業の国際競争力強化をサポート

～日本製鉄によるUnited States Steel Corporationの買収に対するハイブリッドファイナンス～

特定投資

我が国鉄鋼産業の構造変化と国際競争の激化

我が国の鉄鋼産業は、人口減少や輸出環境の変化による需要の減少及び中国における需給バランスの悪化等を背景とした鋼材マージンの低迷により、厳しい事業環境が継続しています。かかるなか、同産業の持続的な成長・国際競争力の強化に向けては、国内生産体制の再構築や商品構成の最適化・価格の適正化等に加え、需要の拡大が見込まれる地域における拠点拡充の重要性が一層高まっています。

海外展開の強化を軸とした日本製鉄の成長戦略

日本製鉄(株)は、「総合力世界No.1の鉄鋼メーカー」を目指して成長し続けるため、中長期経営計画の柱の一つとして、海外事業の深化・拡充を掲げ、グローバル粗鋼1億トン体制構築に向けた、海外事業戦略を推進しています。その具体的施策の一つとして、日本製鉄は2025年6月にUnited States Steel Corporation (U.S. Steel)を買収しました。U.S. Steel買収により、先進国最大の鉄鋼需要市場である米国での生産拠点確保に加え、当社の技術導入による伸びる高級鋼需要への対応力向上が期待されています。また、大型電炉を活用した高級鋼製造技術の展開等を通じて、技術競争力の強化や脱炭素への取組の推進も期待されます。

成長資金の供給を通じた我が国鉄鋼産業の競争力強化

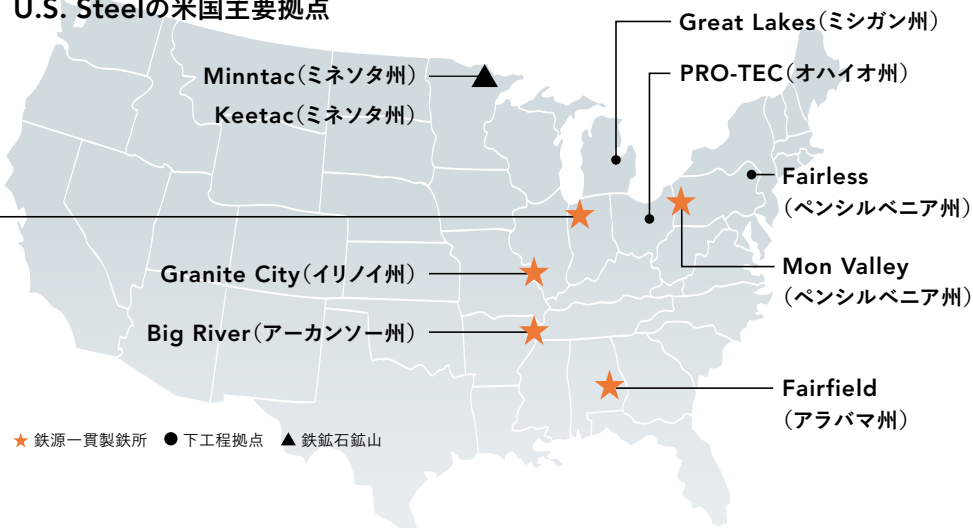
日本製鉄が米国子会社とU.S. Steelの合併に伴う株式取得資金の弁済を用途とする調達を行うに際して、DBJは、かかる取組が、日本製鉄の海外事業戦略の推進や技術力・供給能力の強化につながり、ひいては我が国鉄鋼産業の国際競争力強化に資するものであることから、「特定投資業務」を活用し、日本製鉄に対するハイブリッドファイナンスを通じたサポートを実施しました。

Gary(インディアナ州)

Gary製鉄所はU.S. Steel最大の製造拠点です。日本製鉄の技術導入による製造実力強化、高級鋼製品の拡充等を目的とした戦略的投資を進めています。



U.S. Steelの米国主要拠点



体外診断薬分野における我が国の競争力強化を後押し

～デンカによるカイノスの株式取得に対する出資～

特定投資

日本のIVD産業の競争力強化に向けた連携の推進

体外診断薬(IVD)とは、血液や尿、唾液などの検体を体の外で検査し、感染症の有無や臓器の状態を把握するための試薬や検査キットなどを指し、医療を支える重要な物資です。デンカ(株)とDBJグループは、日本のIVDメーカーは高い技術力を有するものの、比較的売上規模が小さい企業が多く、国際競争力の面で課題を抱えていることから、業界内におけるアライアンスの推進が必要と考えてきました。

デンカ×カイノスのアライアンスをリスクマネーで後押し

デンカは、経営計画「Mission 2030」においてヘルスケア領域を最重点領域の一つと位置づけ、かかる領域の拡大、強化を模索してきました。こうした方針のもと、デンカは国内のIVDメーカーである(株)カイノスの株式を取得し、研究開発及び海外での拡販等を含む協業を推進することとしました。DBJは、デンカのかかる取組が国内IVD業界が抱える課題の解決に向けた先駆的な取組であり、同業界全体の競争力強化にも資することから、「特定投資業務」*を活用し、優先株出資を実行しました。

*「特定投資業務」の一環である「サプライチェーン強強化・インフラ高度化ファンド」を活用



自動車業界における事業承継及び再編への特徴的な取組をサポート

～セレンディップ・ホールディングスによるサーテックカリヤの事業承継に対する優先株出資～

特定投資

変革期の自動車産業における、事業承継・再編の重要性

自動車業界では、米国関税や中東情勢等の地政学リスクが顕在化するなか、グローバルで方向性が揺れ動く電動化への対応に加え、SDV(Software Defined Vehicle)化等への対応が、中堅・中小企業の部品サプライヤーを含むサプライチェーン全体で求められています。このような状況のもと、優れた技術・文化を持つ日本のものづくり企業における事業承継・再編問題は近年大きく注目を集めています。

セレンディップ・ホールディングスによるロールアップ型M&Aを通じた長期的な企業価値向上

セレンディップ・ホールディングス(株)は、ものづくり企業を中心とした中堅・中小企業に対し、プロ経営者を派遣しハンズオン型の経営支援を行うことで、経営高度化と再成長をサポートする事業投資会社です。同社の特徴は、上場会社である同社の傘下にサプライヤーを集約し、生産・組織体制の合理化・高度化を図るロールアップ型買収を志向している点にあります。コストカットを中心とした短期的な利益創出や、自社の早期Exitのみを優先する投資スタイルとは異なり、「売却を前提としない長期的な企業価値向上」を掲げる同社の独自の方針は、既存のステークホルダーとの関係性を円滑に承継することを望む投資対象会社にとって大きな価値を持っています。

本件においても、めっき処理工程において国内有数の優れた技術を持ち、グローバル拠点を活用して業界を支える(株)サーテックカリヤの新たなスポンサーとなり、業界知見が豊富なプロ経営者を派遣しつつ、セレンディップグループが有する生産・組織管理体制の合理化・高度化ノウハウの浸透、既存投資先との協業等により、同社を新たな企業ステージに成長させるための一歩を踏み出しています。

事業承継・再編を通じたものづくり企業の競争力強化をリスクマネーでサポート

DBJは、セレンディップグループによる本件のような中堅・中小サプライヤーのロールアップ型買収の推進は、不透明感が高まる我が国の自動車産業において、業界再編を通じた国内サプライチェーンの強靱化に資するものと考え、「特定投資業務*」を活用し、商工中金キャピタル(株)と共に、優先株式の形態で資金を提供しました。DBJグループは、ナレッジとネットワークの提供等を通じ、今後も企業の競争力強化に貢献していきます。

*「特定投資業務」の一環である「サプライチェーン強靱化・インフラ高度化ファンド」を活用

価値共創の現場から



DBJ担当者(当時)

ものづくりの強化・進化に向けて、セレンディップグループさまは独自のポジションを確立し、着実かつひたむきに投資先の企業価値向上に取り組んできました。DBJグループは、リスクマネーの供給を通じて、セレンディップグループさまと共に、次の100年を見据えた日本の製造業・ものづくりへのサポートに真摯に取り組んでまいります。

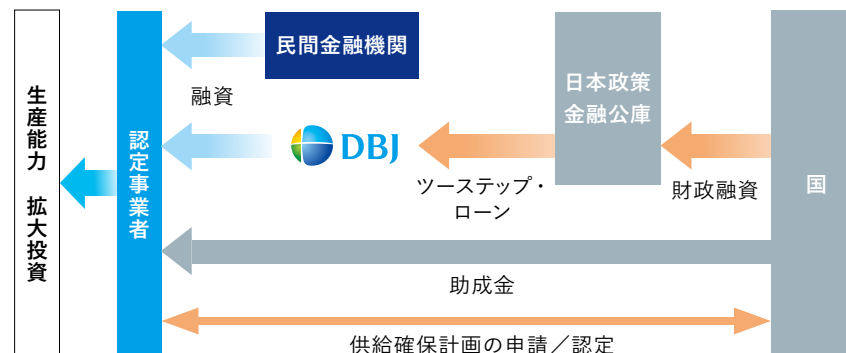
特定重要物資の国内安定供給を金融面からサポート

～大阪チタニウムテクノロジーズ・日本触媒に対する経済安全保障推進法に基づくツーステップ・ローン～

特定重要物資の国内安定供給に向けて

国際情勢が複雑化し地政学リスクが高まるなか、日本の産業力強化や国民生活の安定に欠かせない物資の国内安定供給体制の構築・強化がますます求められています。政府は、半導体、航空機材料、蓄電池等の16物資を特定重要物資と位置づけ、それらの国内安定供給に取り組む民間事業者をサポートしています。認定を受けた事業者は政府による助成のほか、DBJを含む指定金融機関によるツーステップ・ローン*の融資等を受けることができます。

* (株)日本政策金融公庫が提供する長期・低利の財政融資を原資とした融資



事例

大阪チタニウムテクノロジーズに対するツーステップ・ローン

スポンジチタン安定供給へ向けたサプライチェーン強靱化を後押し

(株)大阪チタニウムテクノロジーズは、日本で初めてスポンジチタン製造の工業化に成功し、航空機エンジン向け高品質チタンの製造技術を有する世界有数のスポンジチタンメーカーです。近時の航空機需要の拡大や、世界的なチタン供給網の再編を背景に、高品質なスポンジチタンの安定供給の重要性は一段と高まっています。このような状況のなか、同社は2027年度末までを完工目標として、本社・尼崎工場のスポンジチタン生産能力増強を進めています。当該計画が経済産業省より供給確保計画の認定を受けたことを踏まえ、DBJは、特定重要物資である航空機用スポンジチタンの安定供給確保及びそれを通じた同社の成長を後押しする観点から、経済安全保障推進法に基づくツーステップ・ローン(供給確保促進業務)を実施しました。



事例

日本触媒に対するツーステップ・ローン

蓄電池サプライチェーンの強靱化を通じて、成長産業の育成をサポート

(株)日本触媒は、リチウムイオン電池用電解質「イオネル®」の生産能力の大幅拡大に向けた北九州工場建設にあたって、経済産業省から供給確保計画の認定を受けています。イオネル®は長寿命に加え、低温・高温への耐性といった特徴から、車載用にとどまらず、民生用や定置用の蓄電池等、様々な用途に利用可能な電解質であり、同社の中期経営計画にて成長事業領域の一つとして位置づけられています。DBJは、特定重要物資である電解質の安定供給確保及び日本国内の蓄電池サプライチェーンの強靱化、さらにはそれを通じた同社の成長をサポートするため、経済安全保障推進法に基づくツーステップ・ローン(供給確保促進業務)を実施しました。



工場完成イメージ

持続可能な医療の実現に向けた医療ロボットの開発推進をサポート

～ソニーグループ発のスタートアップ企業・クオリィに対する出資～

DBJ「イノベーション投資部」による取組

DBJグループは、業種横断的な新事業開発や産業のイノベーションを推進するため、2017年に投融資業務全般を統括する業務企画部に「イノベーション推進室」を創設し、「新結合を促す触媒として、より良い未来の芽を探索し、共に創り、育てる」というミッションを掲げ、イノベーションを促進するための取組を推進してきました。2020年には、DBJグループのネットワークや産業創造の経験を活用し、DBJグループ自身がディープテック活動に対して主体的な経営参画で投資する「Society5.0挑戦投資制度」を創設し、さらに活動を続けてきました。「Society5.0挑戦投資制度」では、社会課題解決に向けた大きなインパクトが見込めるアイデアや新結合であるにもかかわらず、事業化に向けたタイムラインの見通しが不透明であり、従来の価値観では捉えにくい活動を対象としています。2025年3月には、「イノベーション投資部」として再組成し、国立研究開発法人や国内外の企業やスタートアップとの連携をさらに強化させ、その連携において新たな価値を創造する触媒となるよう、活動を強化しています。

事例

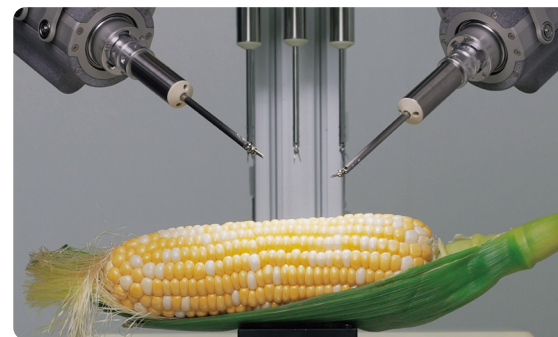
マイクロサージャリー支援ロボットの開発推進をサポート

外科医療は、人命救助にとどまらず、多くの人々のQOL(Quality of Life)の維持・向上に欠かすことができない社会基盤です。マイクロサージャリーは、顕微鏡下で、細い血管や神経、リンパ管などの微細組織を扱う外科手術手法の一種ですが、顕微鏡下での繊細な作業が求められるため、専門性の習得に高い技能と多くの経験を要し、外科医のなかでもマイクロサージャリーを実施できるのは一部の熟練層に限られていることが、治療法としてさらに広がるうえでの課題となっています。

クオリィ(株)は、マイクロサージャリー領域での外科手術にて活用される医療ロボットの開発を目指す、ソニーグループ(株)からスピンオフしたスタートアップ企業です。同社が開発を進めるロボットは、微細な血管や神経等を高精度に操作でき、超微細な手術精度や新たな臨床応用への可能性が注目されています。

DBJは、クオリィの取組がより一層拡大することで、医療課題の解決とそれに伴う持続的な医療提供体制の実現が進み、我が国の経済社会の活力向上及び企業の競争力強化に資すると考え、「特定投資業務*」を活用し投資を実行しました。今後も、同社の経営・事業戦略の検討に関わりながら、同社の取組を継続的に後押ししていきます。

*「特定投資業務」の一環である「スタートアップ・イノベーションファンド」を活用



クオリィ(株)の医療ロボティクス技術(イメージ)

インパクト評価

特定投資

ISSUE 社会課題

医療提供	熟練医師の人材不足、医療資源の効果的活用不足
健康・生活	患者の高度医療へのアクセス制約、術後のQOL向上のニーズ増
産業	医療機器産業における国際競争力・プレゼンスの不足

INPUT 投入資源

知的資本	ソニーグループからの継承技術、医師・ヘルスケアVCの知見
人的資本	社内エンジニア、外部アドバイザー(AI・医療)
社会関係資本	ソニーグループ、医療機関・医師との連携

ACTIVITY 事業活動

- ・マイクロサージャリー支援ロボットの開発・製造及び販売・導入体制の構築
- ・医療機器産業を取り巻く多様なステークホルダーとの社会実装に向けた共創

OUTPUT 事業の直接的な成果

- ・日本発医療支援ロボット技術の確立及び社会実装基盤の構築

OUTCOME どのような変化を与えるか？

医療提供	・熟練医師の人材不足解消、医療資源の効果的活用の促進 ・医療の質・安全性の向上
健康・生活	・患者の高度医療へのアクセス制約の緩和 ・患者の術後のQOL向上
産業	・国内技術力の高度化、国内市場・産業規模の拡大による、日本の医療機器産業競争力の強化

IMPACT どのような社会にしたいか？

医療支援ロボットの導入による持続可能な医療システムの実現
医療機器ロボット産業における国際的なプレゼンスの確立

価値共創の現場から



クオリイ(株)ご担当者(左)とDBJ担当者

クオリイ(株)コメント

クオリイは、ソニーグループ発の技術を基盤に、マイクロサージャリー支援ロボットによる医療への貢献を目指して発足しました。今後もDBJグループとの連携を通じて、患者様のQOL向上に資するイノベーションを実現し、グローバルに競争力のある新産業を創出するべく、未来へ向けた挑戦を続けてまいります。

担当者(DBJ)コメント

大手企業の優れた技術の事業化をサポートすることは、DBJグループの重要なミッションの一つと考えています。そのなかでクオリイさまの挑戦を後押しすることは、長期的な視点で国内の医療ロボットの産業化の芽を育て、また同産業の国際競争力の強化にもつながるものと確信しています。